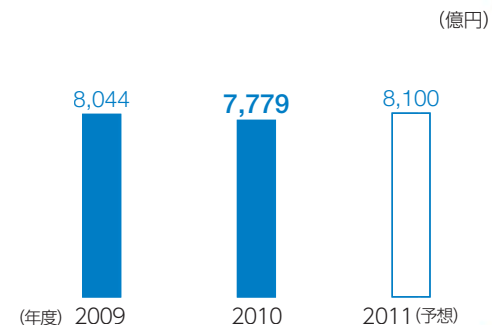


財務ハイライト

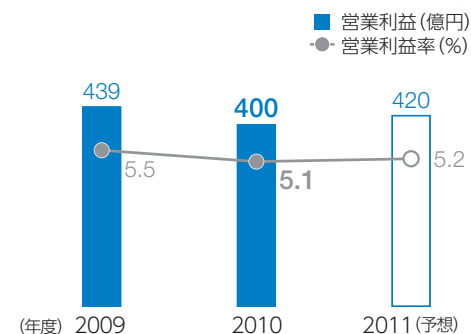
売上高

売上高は、前期比3.3%減の7,779億円となりました。主力の情報機器事業などで販売数量が伸びましたが、USドル、ユーロともに期初から大幅な円高が続く中、為替換算による減収影響が531億円ありました。この影響を除くと、3.3%の増収でした。



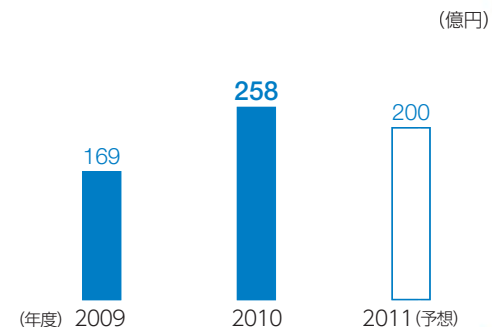
営業利益

営業利益は、前期比9.0%減の400億円となりました。生産性の改善やコストダウン、費用削減に努めたものの、為替の影響をカバーすることができませんでした。売上高同様、為替による減益影響が209億円あり、これを除くと38.6%の増益でした。

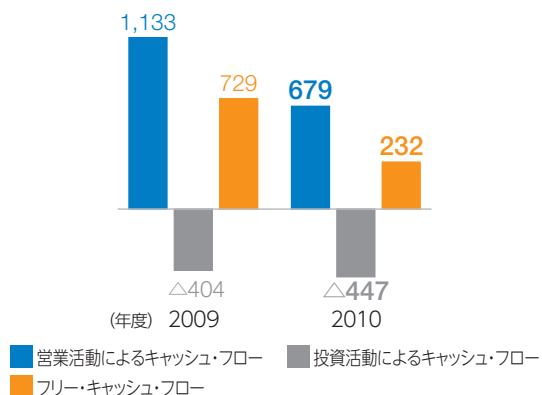


当期純利益

当期純利益は、前期比53.0%増の258億円でした。円高に伴う為替差損の発生がありましたが、フォトイメージング事業を行っていた子会社の解散に係る税効果の適用などにより、大幅な増益となりました。

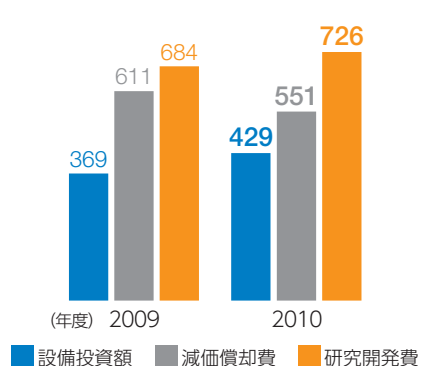


キャッシュ・フロー(億円)



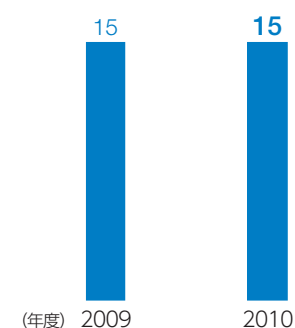
- たな卸資産及び投資圧縮を徹底した前期に対し、当期は成長に向けた投資を積極的に行ったこともあり、前期比497億円減の232億円となりました。

設備投資額／減価償却費／研究開発費(億円)



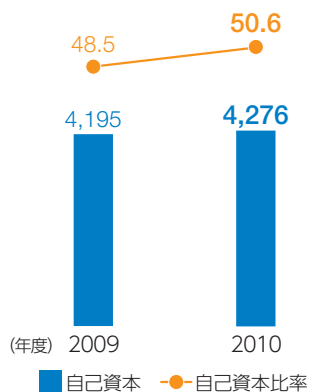
- 情報機器事業の新製品用金型投資や、オプト事業での生産能力増強に関わる投資を行いました。

1株あたり配当金(円)



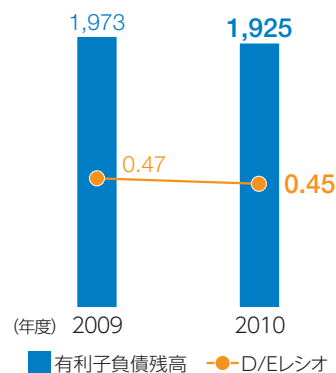
- 株主の皆様へ継続的に利益還元するという基本を維持し、当初の予定どおり、年間配当15円を計画しています。

自己資本(億円)／自己資本比率(%)



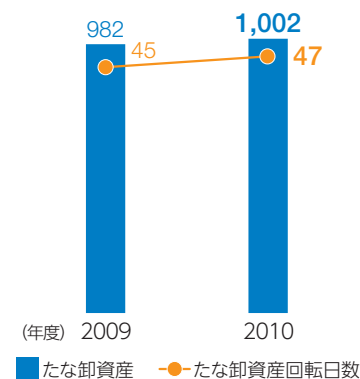
- 当期純利益の増益による利益剰余金の増加で、自己資本は前期比81億円増の4,276億円となりました。
- ※自己資本＝期末株主資本＋その他の包括利益累計額
※自己資本比率＝自己資本／期末総資産

有利子負債残高(億円)／D/Eレシオ(倍)



- 社債が増加した一方で、借入金の返済を進めたことから、有利子負債は前期末から47億円減少し、1,925億円となりました。
- ※D/Eレシオ＝期末有利子負債／自己資本

たな卸資産(億円)／たな卸資産回転日数



- 前期末は大幅に圧縮されたたな卸資産は19億円増加し、1,002億円となりました。
- ※たな卸資産回転日数＝期末たな卸資産／1日あたり売上高(累計)